

平成30年度キャリアアップ研修会



平成30年8月27日（月）、京都医療科学大学においてキャリアアップ研修会（南丹教育委員会連絡協議会主催）が開催され、亀岡市、南丹市及び京丹波町の教頭等およそ60名が参加しました。

小学校の新学習指導要領で必須化される「プログラミング教育」をテーマとして、特定非営利活動法人「みんなのコード」の福田 晴一指導者養成主任講師を講師に迎えて講義・模擬授業が実施されました。

〇講義「プログラミング必須化の背景と現状」

社会のあらゆる分野でコンピュータが活用されるようになり、今後、人工知能や音声認識などの革新的テクノロジーによって現存する仕事の49%は失われ、新しい職業が生まれると言われています。

福田講師からは、「コンピュータの特性を理解し適切に活用する力は、将来の可能性を広げる重要なリテラシーであり、少子高齢化、人口減少、グローバル化を迎える社会においては、より良く豊かな社会を迎えることに繋がること。」をお話いただきました。

また、コンピュータが命令で動作するもので、その命令が「プログラム」、命令を与えることが「プログラミング」、自分が意図する一連の活動を実現するために手順・言語・組合せを論理的に考えることが「プログラミング的思考」であること。新学習指導要領においても情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」に位置づけ、算数や理科、総合的な学習の時間などを活用し、コンピュータを活用した学習活動の充実や「プログラミング的思考」の育成が求められていることが紹介されました。

その後、コンピュータの基本的動作である「命令」、「順次・順序」、「条件分岐」を使って意図した作業を行なわせるため試行錯誤することは、探究的な学習にもつながることなどが説明されました。



〇模擬授業

後半には、小学校の総合的な学習の時間での指導を想定した模擬授業が行われました。

まず、「家で何台コンピュータが使われている？」という発問から、身近な電気製品にもプログラムが使われていること、そして、アンプラグド（コンピュータを使わない）で、体を使った動作や、色紙を使って信号機の動きを再現をして、コンピュータの特性（正確さ、繰り返しが得意であること）を学びました。その後、Web上のソフト「Hour of Code」、「プログル」を使って、実際の命令を組み合わせてキャラクターを動かす体験をし、最後にコンピュータとつながれば良いと思うものをグループで話し合いました。



福田講師からは、実際の授業の進め方について具体的に指導いただくとともに、プログラミング教育を各教科で取り入れる際に、教科のねらいを主に置いた上で活動に「プログラミング的思考」を取り入れることや、単元目標を定着させるためプログラミング教育を通して関心・意欲・態度を深め、新しい見方につなげるようにアドバイスをいただくなど、学びの多い研修会となりました。

南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

